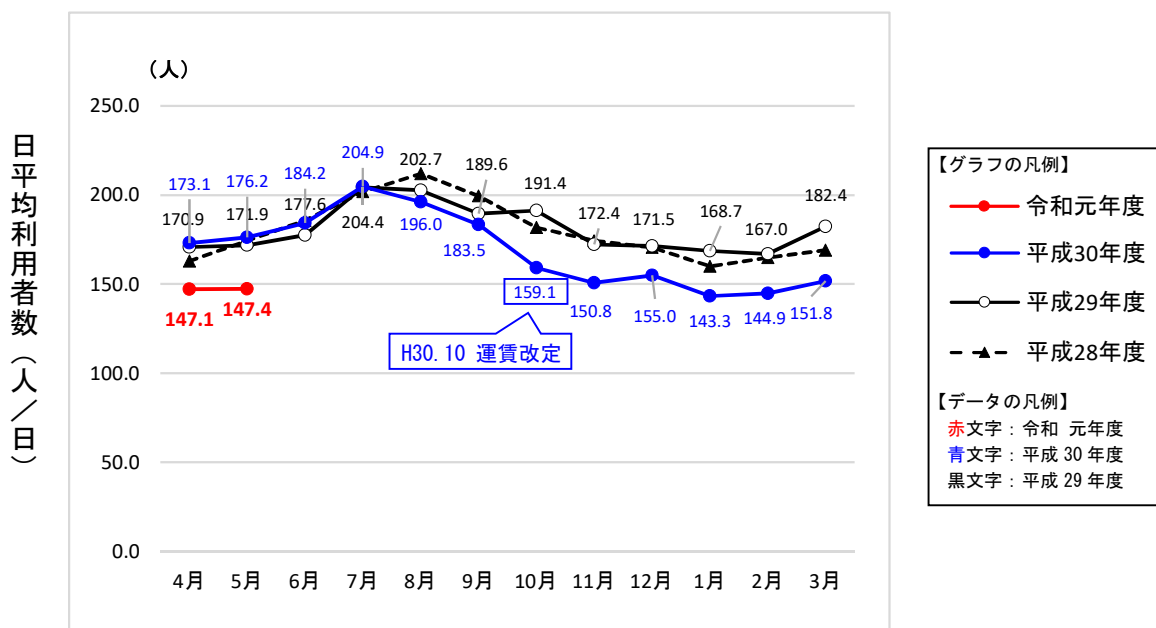


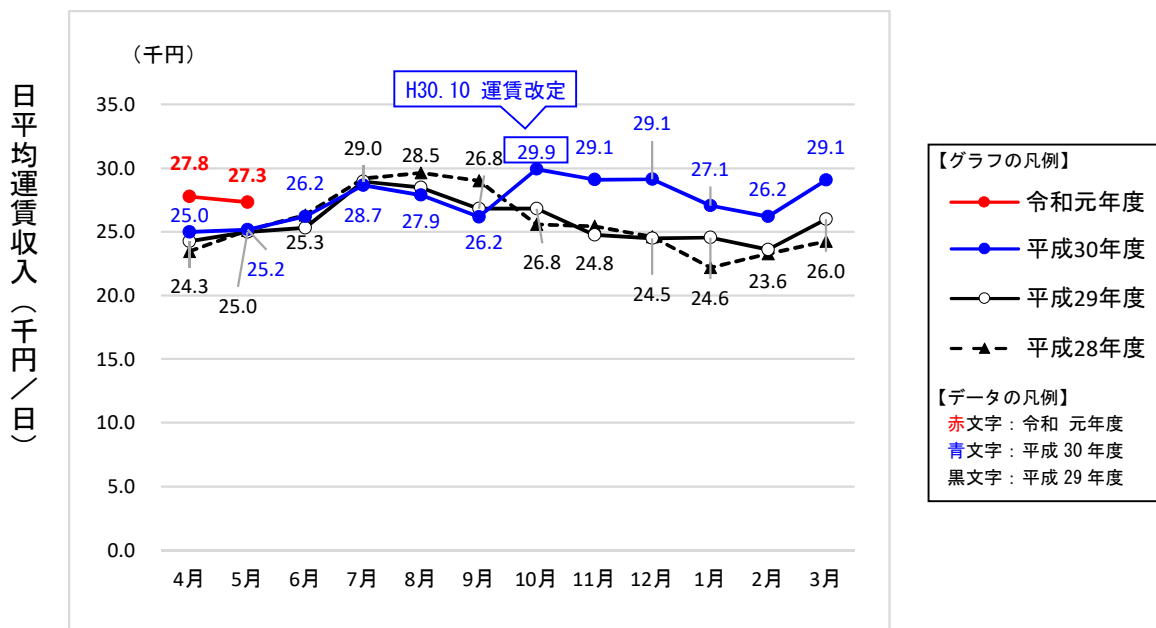
1. 光陽台地区（光陽台線）におけるコミュニティバスの利用者数（乗車人数）及び運賃収入の推移

- ・平成30年10月における運賃改定後、利用者数（日平均利用者数）は、減少傾向である。
- ・一方で、運賃改定後の運賃収入（日平均運賃収入）については、運賃改定前同月と比較すると増加傾向である。
- ・光陽台地区における利用者の減少については、従来では往路復路共にコミュニティバスを利用していたが、行きは歩いて目的地に向かう人が増加したことが要因の1つとして考えられる。（特定の人の利用だけでなく、幅広く利用されていたことが推察される。）

【月別の1日あたりの平均利用者数の推移】



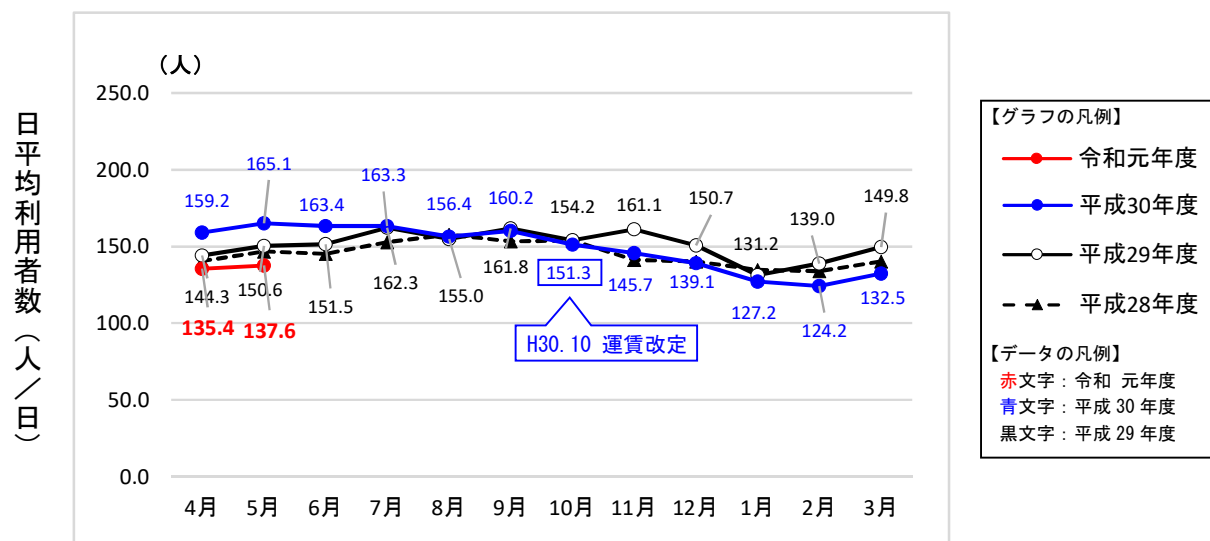
【月別の1日あたりの平均運賃収入の推移】



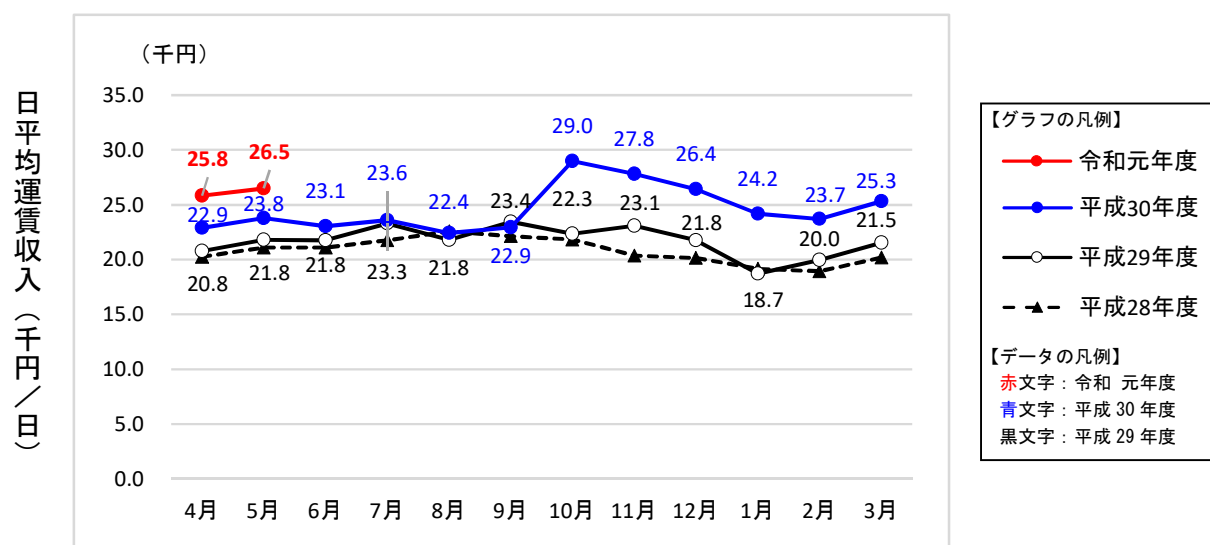
## 2. 本町地区（門前線）におけるコミュニティバスの利用者数（乗車人数）及び運賃収入の推移

- ・平成30年10月における運賃改定後、利用者数（日平均利用者数）は、減少傾向であるが、運賃改定後の運賃収入（日平均運賃収入）については、運賃改定前同月と比較すると増加傾向である。
- ・本町地区における利用者の減少については、従来では往路復路共にコミュニティバスを利用していたが、短い運行距離で運賃改定が行われたため、行きは歩いて目的地に向かう人が増加したことが要因の1つとして考えられる。（特定の人々の利用だけでなく、幅広く利用されていたことが推察される。）

【月別の1日あたりの平均利用者数の推移】



【月別の1日あたりの平均運賃収入の推移】

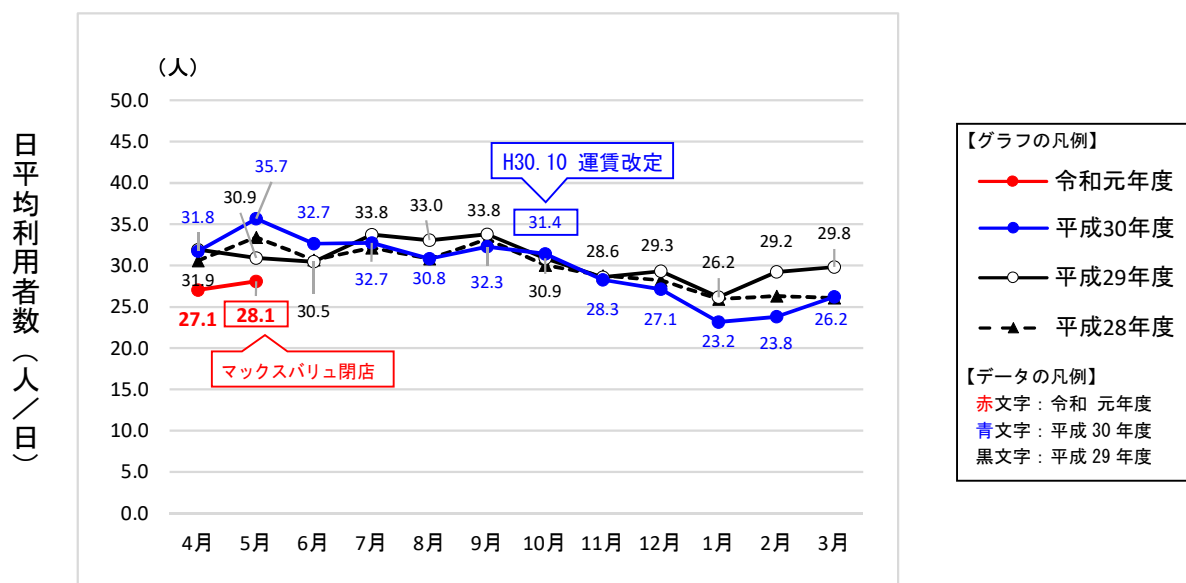


※運賃収入＝現金収入＋回数券（使った金額）

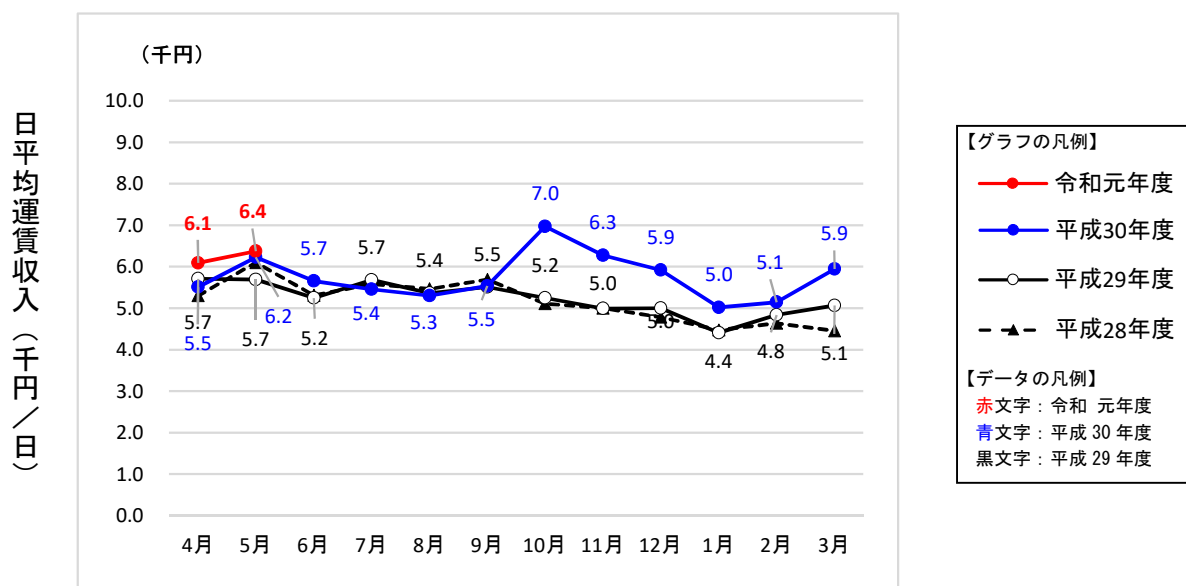
3. 南地区（西畑・有里線）におけるコミュニティバスの利用者数（乗車人数）及び運賃収入の推移

- ・平成30年10月における運賃改定後、利用者数（日平均利用者数）は、減少傾向であるが、運賃改定後の運賃収入（日平均運賃収入）については、運賃改定前同月と比較すると増加傾向である。
- ・平成31年4月20日にマックスバリュが閉店しているが、利用者数（日平均利用者数）が増加している。（月別の利用実績によると、マックスバリュの利用は、4月（20日間）：79人である。神田橋西では、4月（20日間）：83人、5月（19日間）：104人となっており、マックスバリュの代わりに、業務スーパー等で買い物を済ませている人が増えたと考えられる。）

【月別の1日あたりの平均利用者数の推移】



【月別の1日あたりの平均運賃収入の推移】

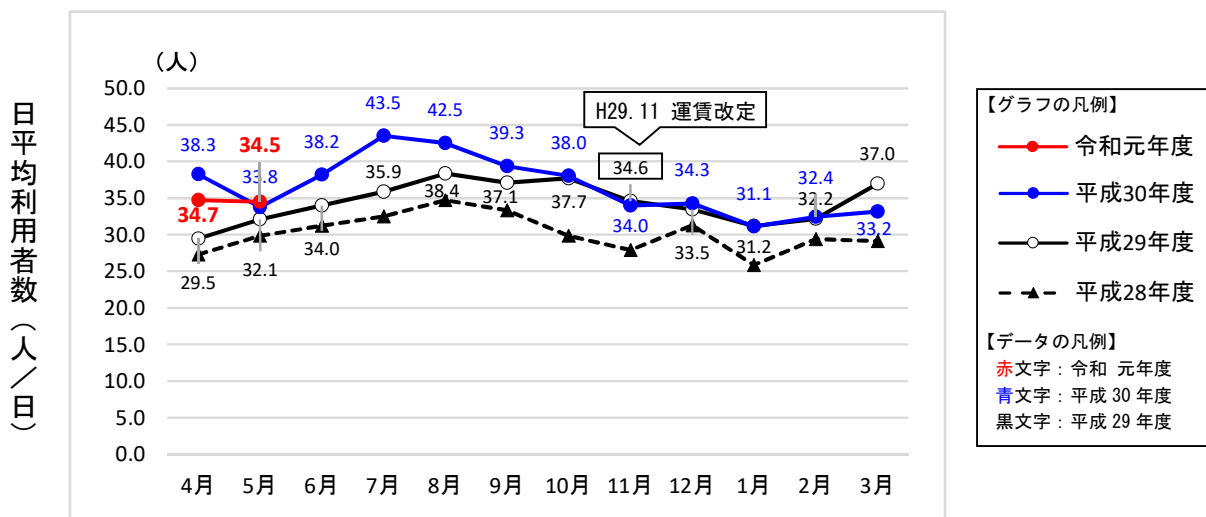


※運賃収入＝現金収入＋回数券（使った金額）

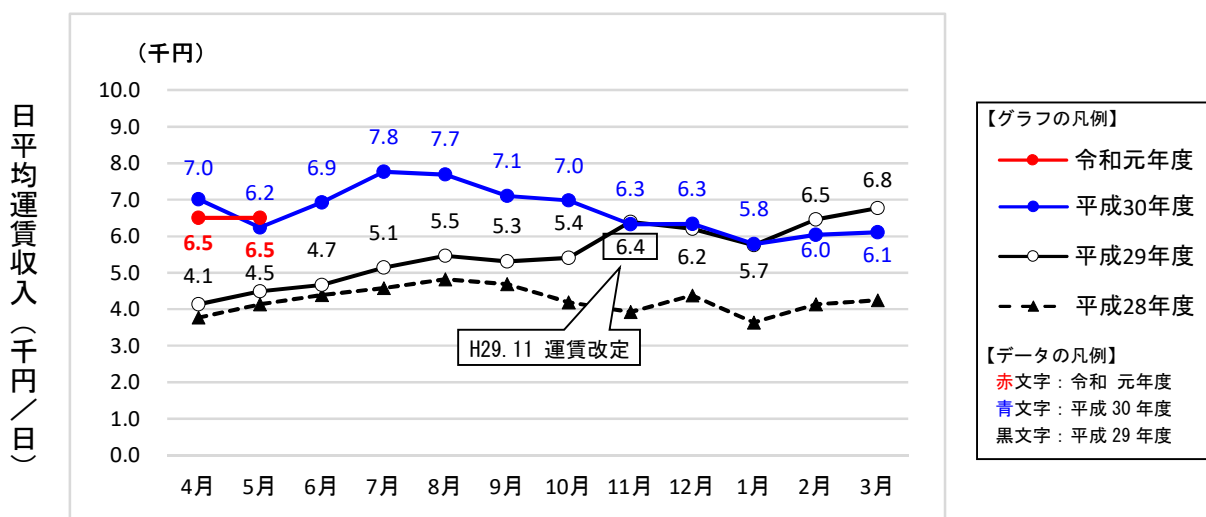
4. 北新町地区（北新町線）におけるコミュニティバスの利用者数（乗車人数）及び運賃収入の推移

- ・平成30年度の利用者数（日平均利用者数）は、過年度（H28, 29年度）と比較すると増加傾向である。（平成30年度のH30.11、H31.3の利用者数は、平成29年度よりも少なかった。）
- ・日平均運賃収入の推移をみると、令和元年4月は前年度よりも運賃収入が減少しているが、翌月（令和元年5月）では、過年度で最も多い収入となっている。

【月別の1日あたりの平均利用者数の推移】



【月別の1日あたりの平均運賃収入の推移】



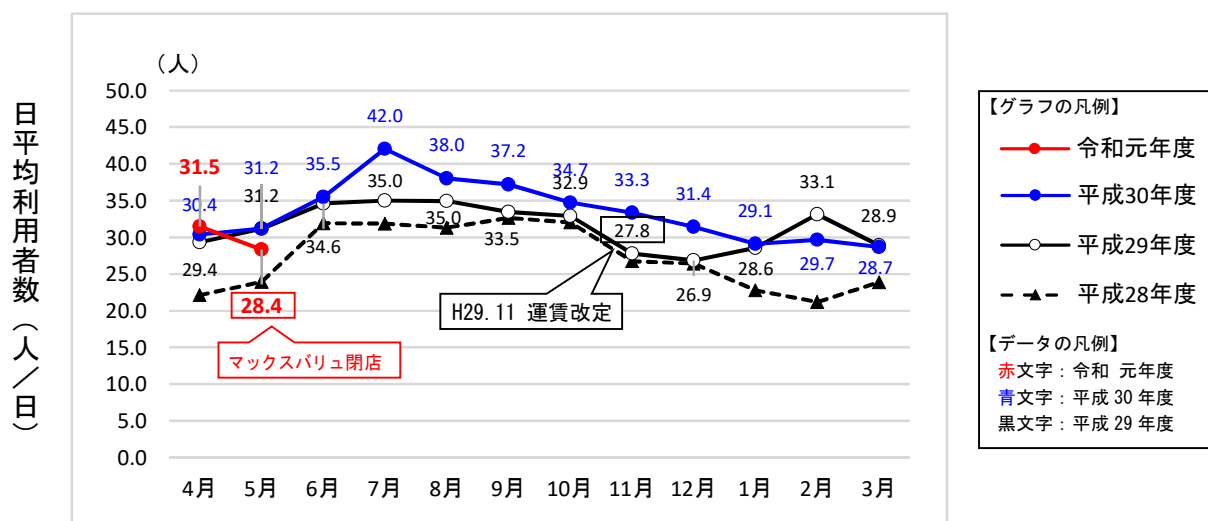
※運賃収入＝現金収入＋回数券（使った金額）

5. 萩の台地区（萩の台線）におけるコミュニティバスの利用者数（乗車人数）及び運賃収入の推移

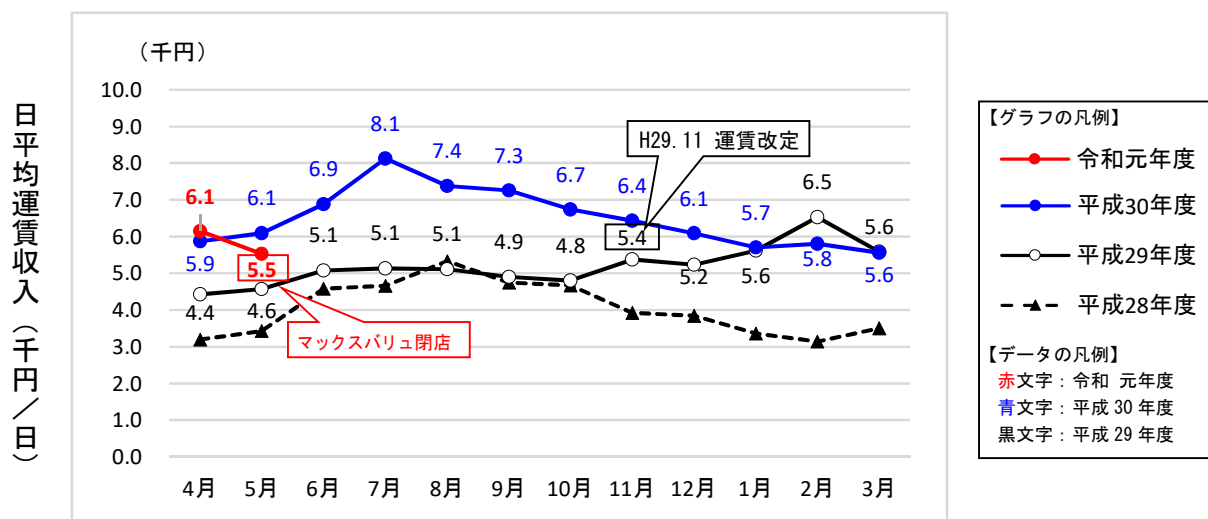
・運賃改定が実施された H29. 11 以降の利用者数は季節ごとによる増減は見られるものの、過年度（平成 28 年度）と比較すると全体的に利用者数が増加している。

・一方で、平成 31 年 4 月 20 日にマックスバリュが閉店したことで、利用者数（日平均利用者数）が減少している。（月別の利用実績によると、マックスバリュの利用は、4 月（20 日間）：112 人である。神田橋西では、4 月（20 日間）：109 人、5 月（19 日間）：128 人となっており、マックスバリュの代わりに、業務スーパー等で買い物を済ませている人が増えたと考えられる。）

【月別の 1 日あたりの平均利用者数の推移】



【月別の 1 日あたりの平均運賃収入の推移】



※運賃収入＝現金収入＋回数券（使った金額）